

4. 白河関の森公園の将来像および整備の方向性

4. 白河関の森公園の将来像および整備の方向性

(1) 白河関の森公園整備コンセプト

○白河市・旗宿地区の「核」となる関の森公園

▶関の森公園だけでなく、周辺のコンテンツ（林道、ダム、関山、星空など）も考慮した「まちづくり」の視点が必要である。

○行政・地域住民と一緒に継続して育ていける公園

▶ソフト・ハード共に住民参加の視点で進める必要がある。

○世界に発信できる風景や仕組みのある公園

▶今後のプロモーションも踏まえた視点が求められる。

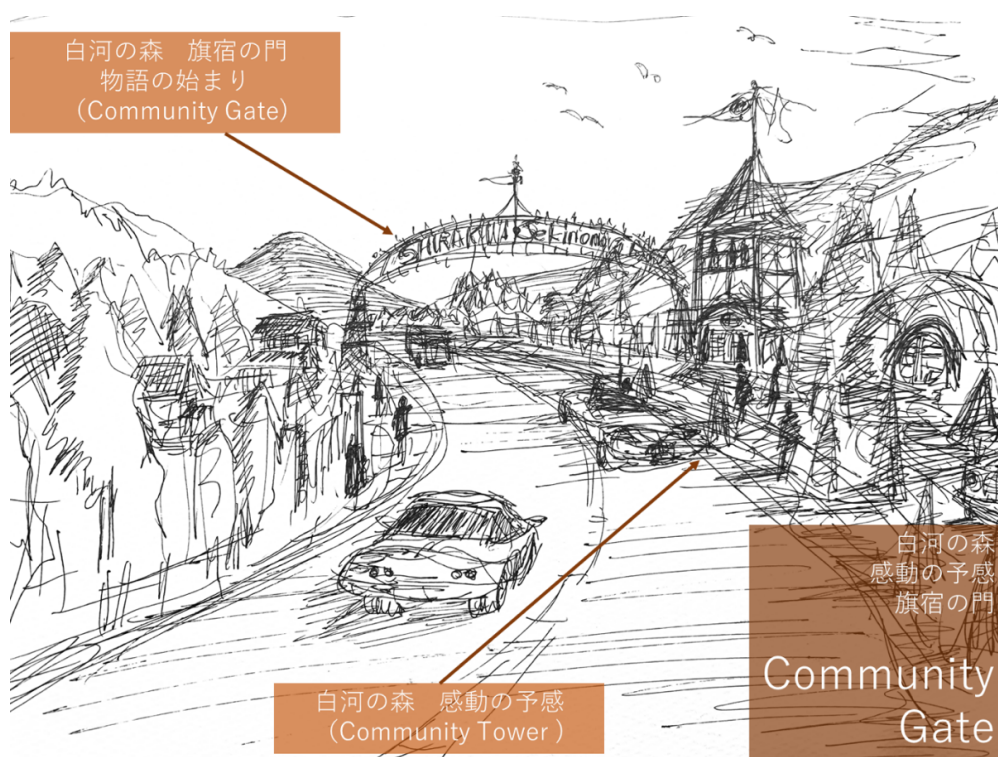
(2) 白河関の森公園の将来像

白河関の森公園の将来像としては以下の内容が考えられる。

1) 若い世代が地元に戻りたくなる仕組みづくり

白河市で育った若い世代は、一旦、高校や大学進学等で外部に転出する傾向にある。そういった若い人たちが転出後に地元に戻れる環境があれば若い世代の人口が減少することなく、増加することも期待できる。そこで、白河関の森公園が新たな憩いの場だけではなく、新しい交流や産業を創り出すような交流拠点、定住拠点をつくり出し、若い世代が地元に戻り、公園の中で仕事ができるような観光・産業創造の場が必要となる。

関の森公園での新しい交流が生まれ、新しいコミュニティが形成され、そして交流から定住に移行する（関の森公園を通じて白河市を来訪し、好きになり、住みたくなる）ような、白河関の森公園の新たな活用提案が求められる。



2) 産業創造（教育拠点）としての関の森公園の活用

自然体験の場としての公園の風景はとても豊かであり、非常に望ましい姿になると思われる。そこで、産業創造の一つとして、自然豊かな公園の特性を踏まえた、自然から学ぶ体験型の「教育産業」が考えられる。関の森公園内で自然を体験する仕組みやソフト（プログラム）を計画し、住民も一緒になって参画できる仕組みを取り入れ、自然と共生する白河市独自の公園づくり（まちづくり）が考えられる。

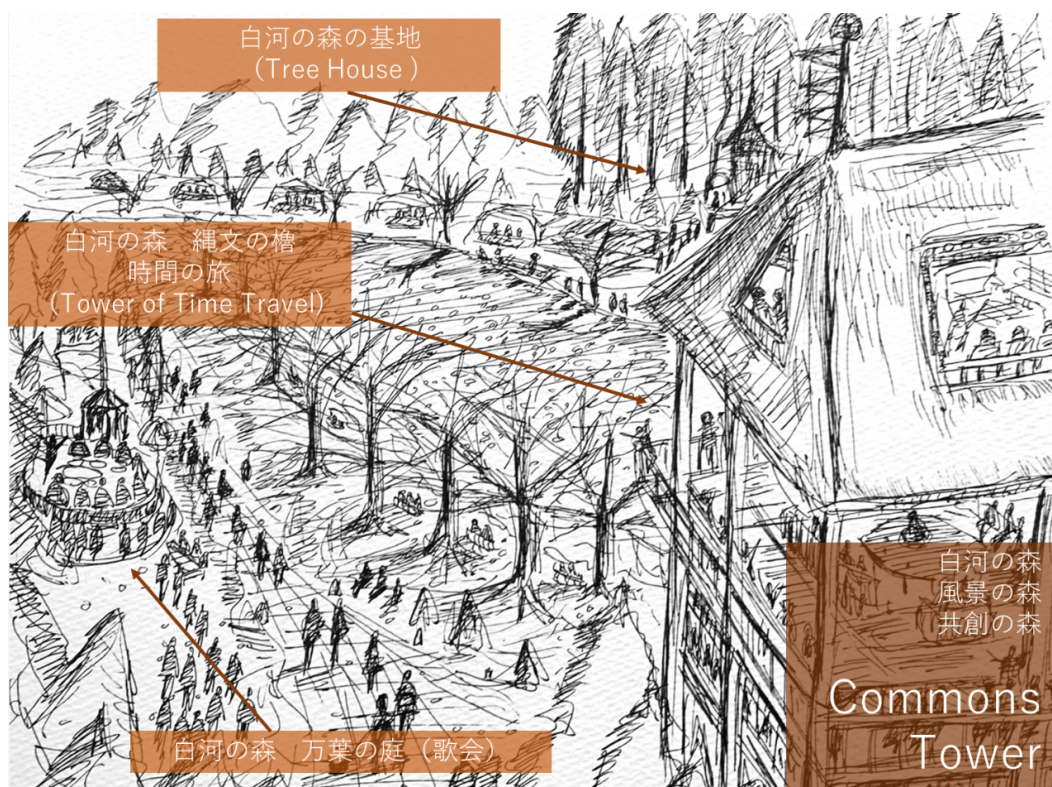
また、産業人口の高年齢化、熟練の方が多き産業には、そのこと自体が資源になる可能性があるため、伝統産業や民話などを分析するなどし、関の森公園を活用した新たなものづくりに関する教育プログラムの創生も求められる。

3) 自然の魅力を活用した観光資源としての公園整備

計画地周辺は市街地よりも少し高くなった山の入口で、静まった森の中に位置する。標高は400～500m程度で、山脈に囲まれた盆地であり標高が比較的高い場所である。夏は大変涼しい気候であり、とても暮らしやすい環境にある。

植生は杉、ヒノキ、コナラなどを中心に日本の原風景、里山が残っているため、人々が楽しみ、交流しながら里山や森を整備するプログラムなどが考えられる。里山や森づくりを進めることにより、人と森の共生、人と里山の共生という新しい持続可能な公園モデルになりうると考えられる。

これらの資源を元に、市街地とは違うグリーンツーリズムや、自然の中での文化的生活、自然の営みを観光資源として活用し、自分たちの地域、自然環境のすばらしさを次世代に継承するプログラムが提案できる。



4) コミュニティ形成の場としての公園整備（交流から定住へ）

交通の利便性が良い等の理由から日帰り客の多い現状を踏まえ、関の森公園を訪れた人が公園利用を楽しんだ後、コテージのような長期滞在が出来るような仕掛け、滞在したくなる仕組みづくりが必要となる。

今後はファミリー層、白河の歴史に興味ある人に対するプログラムをつくることで交流が生まれ、さらなる魅力を打ち出すことが可能となる。その上で、若年層、未就学児を持つファミリー層が将来の白河市に定住し、まちを育てていける環境整備が必要となる。あわせて、食やものづくりなど地産地消のモノを活用したプログラムをつくり、若手やファミリー層を取り込むことを検討する。

また、宿泊機能の考え方が今回のプロジェクトの重要な視点となる。公園を拠点に地域の人達との交流をつくりながら定住を促進するような長期滞在型のコテージを創り、そこで長期滞在ができ、海外からの来訪者が訪れるような自然環境教育の場所にするのもアイデアの一つとして考えられる。

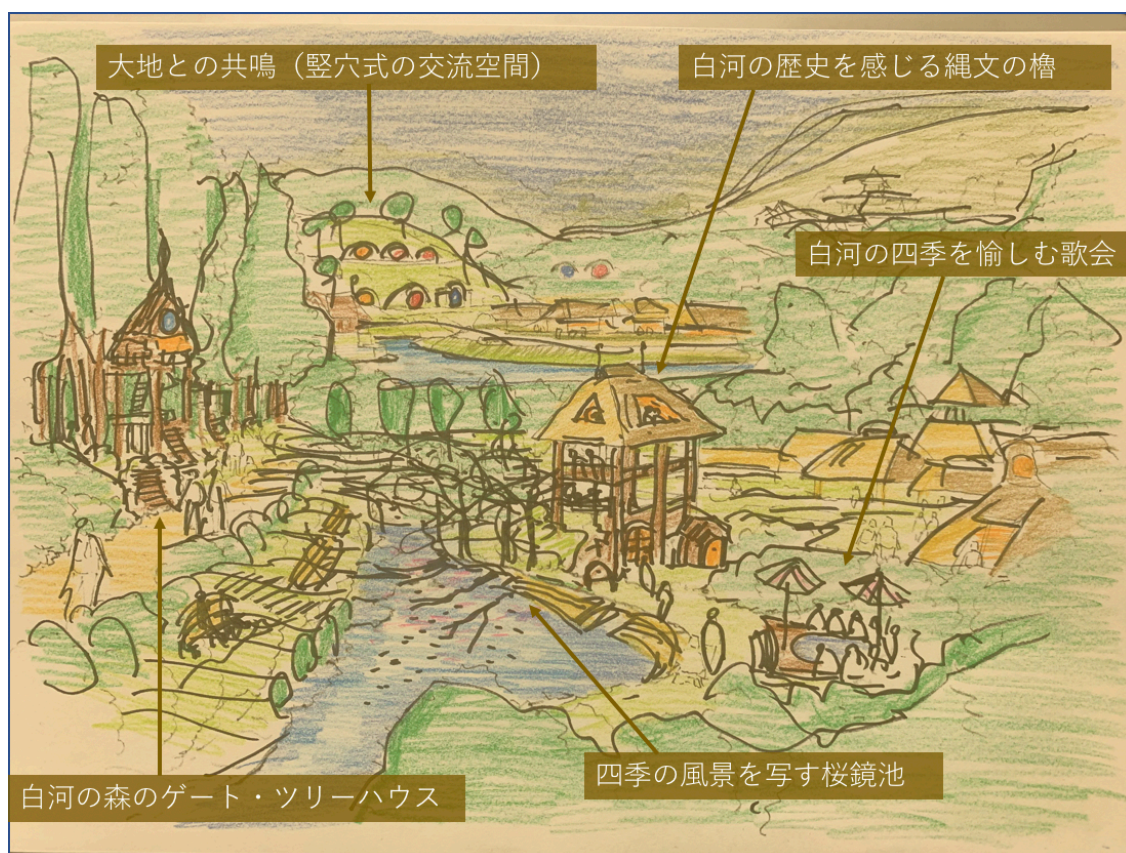
目的のある人が公園を訪問し交流するため、公園が新しい産業や観光、教育等の新しい拠点となり、様々な人が訪れることになる。関の森公園を訪れ、ファンになり、宿泊し、いずれ「ここに住みたい」と思ってもらえるような公園計画が求められる。



5) 白河市の魅力・資産を活用したトップランナーとしての公園整備

立地の良さ、歴史の豊かさ、自然環境の豊かさをしっかり結び付け、それらを関の森公園のプログラムで明確にし、これからの世代を担っていく人達がさまざまな体験をし、仕事を創り、多彩な交流を生み出す拠点として整備する。

これらを通じて、SDGsや持続可能なまちづくりに寄与する新しい公園整備、未だどこも手掛けたことのない、日本のトップランナーになるような公園整備計画を検討している。



(3) 白河関の森公園の整備の方向性・基本となる取り組み

1) 四季を感じ一日楽しめる白河関の森公園を中心としたまちづくり

白河関の森公園および旗宿地区は、自然豊かな地域であり、世界に発信できるような里山の整備ができるようなポテンシャルを有している。四季を感じ取ることが出来る植栽・花壇等の整備に加え、バードウォッチングや、豊かな自然を体験できる散策路の整備を検討する。また、周辺のコンテンツ（白河関跡、林道、ダム、関山、星空など）も考慮した「まちづくり」としての公園整備を行う。

○キーワード

- ・野鳥・バードウォッチング
- ・池、田園風景
- ・林道・散策路・関山
- ・花・植栽・紅葉・四季

2) 白河の地産地消を体験する場（自分で育て、収穫し、食す）

地元で育て、収穫した食材を活用した地産地消カフェやレストラン（オーベルジュ等）などを整備することは、自然豊かな関の森公園の機能の魅力を向上するものとして有用なものと考えられる。また、地元の食を通じた地産地消を体験する場として、周辺地域と一体となった公園整備により地元が誇りを持ち、また、周辺地区から訪れる人が増えるような計画が求められる。

○キーワード

- ・農家レストラン、オーガニックカフェ
- ・朝市、農作物・オーガニック食材
- ・農業体験、農家民宿、グリーンツーリズム

3) 白河関の森公園でしか経験できない自然体験・環境教育の場

公園内では自然の中で花や鳥などを観察しながら散策できる散策路、生きた樹木を活用したツリーハウスなどの自然の遊具、また、自然の中での遊び方を教える「自然体験教室」などのコンテンツを考慮しながらの公園整備が求められる。これまでの工業製品としての「遊具」ではなく、自然が「遊具」となるような、自然型の遊ぶ体験ができる公園整備が求められる。

子供達の教育としては自然に触れあうことが重要であり、そのような環境整備が今後の白河市の強みであり特徴になる。昔はよく実施されていた子供会の活動、公園での宿泊やキャンプなど関の森公園で自然を学び・遊び・食す体験が出来る場を整備する。

○キーワード

- ・農業体験（育て・調理し・食す）
- ・植林・里山の整備・農業体験
- ・フィールドアスレチック、フォレストアドベンチャー
- ・魚の手づかみ、子供会
- ・バーベキュー・キャンプ・グランピング
- ・ツリーハウス・自然の遊具

4) さまざまな人が楽しめる、コミュニティ形成の場

さまざまな立場の人が気持ちよく足を運び、楽しめるような公園整備が求められる。そのためには、バリアフリーやサイン計画の明確さなどの推進について検討する必要がある、関の森公園だけではなく、白河関跡や周辺の林道なども含めた、歩いて楽しい環境整備が必要である。

また、親子3世代が楽しめる公園整備、子供だけが遊べる遊具だけでなく、3世代と一緒に交流できる施設やイベントの実施等が求められている。世代を超えた交流により白河を愛し、住み続けたいと思う若者達が増えることで、活性化することを目指す。

○キーワード

- ・バリアフリー
- ・サイン計画
- ・大人から子供まで楽しめるアドベンチャー施設
- ・3世代交流イベント

5) 白河の歴史を知り体験する場としての公園整備

白河関跡では、これまでいろいろな和歌が詠まれており、それらの背景にある思いなどを知るイベントなどが検討出来る。白河関跡や奥の細道に関連した散策体験のイベントなどが考えられる。また、白河市の少し広いエリアでの歴史散策を促進するコースの設定、それに伴う、里歩きマップなどの作成を検討する。

○キーワード

- ・白河関跡、奥の細道（松尾芭蕉）の歴史
- ・歌会イベント（現代の歌人が白河関跡・奥の細道をどのように感じるのか）
- ・奥の細道に関する散策（旅）
- ・白河関跡の説明（サイン・イベント）
- ・里歩きマップ

(4) 今後の展開

白河関の森公園やその周辺地区には自然が豊かで様々なコンテンツが存在し、ソフト・ハード面で新たな展開をすることにより多くの魅力を創出する可能性を秘めており、それらのことを地元の人達は知っており、望んでいる。これらのことは、旗宿地区だけでなく、白河市全体を見据えた上での計画が求められる。

各項目で考えられるコンテンツを踏まえると、地産地消による名産品を創り出すこと、美味しいものを提供できるレストランやカフェ、3世代で楽しめる自然体験型の遊具、また、キャンプや宿泊、農業体験などさまざまな活動が考えられる。関の森公園は相撲道場や食堂、宿泊施設など様々な施設を有しており、これらの使い方を見直すことにより更なる魅力を発すると考えられる。

これらについては、「コミュニティビジネス」として実践することが考えられる。コミュニティビジネスとは、地域の課題解決をビジネスとして取り組むことで、これにより持続可能な公園整備、まちづくりが可能となる。その拠点として白河関の森公園は大きな可能性を秘めているといえよう。

そのように、関の森公園、旗宿地区、白河市全体の魅力を増やしていくには、ソフトとハードを連携させ、地域資源を磨いていくことが重要となる。基本構想でまとめたキーワードをもとにさらに検討を深め、その実現にむけ、市民・行政・企業の三者が一体となり取り組むことが重要になる。

次の展開として、地域の歴史や特性を踏まえ、白河関の森公園が地域から愛される公園、世界とつながる公園、グローバルコモンズパークを目指し、地域主体で持続可能な公園の創造を促進する。